6. 英語によるプレゼンテーションについて

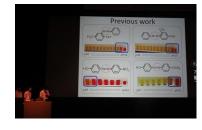
(1) 科学の分野における英語の重要性

科学の分野における英語の重要性は言うまでもないことであるが、いくつか挙げておこう。

- ① 学術論文はほとんどすべてが英語で書かれている。科学の世界の公用語が英語である。
- ② 科学に関する情報収集を行う場合も、日本語ではわずかな情報しか集まらない。高校での課題 研究における情報検索でも、英語をキーワードにすると、多くの情報が集まる。
- ③ 理系の大学や研究機関での研究や、企業における様々な活動も世界を舞台に進められ、英語を使うことが前提となっている。
- ④ 海外の人たちとの交流の場で、自分の研究について伝えるためには英語を使うしかない。

(2) 泉北高校での取組み

- ① 総合科学科の生徒は全員、課題研究中間発表会では、「研究テーマ」を英語表記にし、最終発表会では、発表要旨やポスターの Abstract を数行の英語でまとめることと、口頭発表でもスライド1~2枚にまとめた要旨を英語で発表する。
- ② 第1学年で「科学探究基礎」を選択し、第2学年で「科学英語プレゼンテーション」を選択した生徒は、課題研究発表会の発表要旨・ポスターや口頭発表をすべて英語で行う。



英語で課題研究発表

③ スタディツアーやSSH海外研修では、研修先での会話はすべて英語であるが、大学や高校などで英語でのプレゼンテーションを体験する。また、台湾の國立彰化高級中學との英語による合同研究発表会は6年間継続しており、英語による発表は練習の成果もあってうまくでき、国際交流としても大きな成果を上げることができた。(國立彰化高級中學との合同発表会を参照)

(3) 英語でプレゼンテーションを行うために

英語でプレゼンテーションをする際の注意事項を書いておきたい。

- ① 本来は最初から英語で作成するのがいいが、論理的な展開などを英語で考えるのは難しいので、まず、ポスターやパワーポイントを日本語で完成させる方がよいだろう。
- ② すぐに英語に翻訳するのではなく、<u>英語に直しやすい簡単な短い日本語に修正</u>する。英語の 授業で学習した構文などを思い出して、それに合う日本語に直しておくとよい。
- ③ 次に、<u>英文を一文ずつ日本語に翻訳</u>していく。英文としては文法的に難解な表現は使う必要はなく、簡単な英文だけで対応できる。できた英文を翻訳ソフトなどを用いて、再び日本語に直してみて通じるかをチェックするとよい。それがうまくいかない場合は、元の日本語を修正して英語に翻訳し直す。最近は翻訳ソフトもよくなっているので、上手に使うとよい。
- ④ その際、<u>科学分野の専門用語</u>については、専門分野の辞典などを使ったり、同じ分野の英文の論文をウェブサイトから見つけてきて、読んで確認するとよい。<u>科学英語特有の「決まり文句」</u>や、その<u>分野特有の言い回し</u>などを知ることができて、的確な表現が可能になる。
- ⑤ <u>写真・図・グラフ</u>は世界共通に相手にダイレクトに伝わるので、多く掲載するとよい。数字 はそのまま使えるので、凡例や軸の名称・単位などを英語に直しておく。
- ⑥ ポスターなどには、説明に必要な文章は最低限にとどめ、<u>ポイントだけを英文に</u>して、説明 は口頭で話す方がよい。英語に自信がない場合は、手元に原稿を持って読み上げてもよい。
- ⑦ 完成した英文の発音は、英語科の先生や**ネイティブのALTにチェック**してもらおう。
- ⑧ <u>あとはとにかく練習あるのみ</u>。本番は相手に伝えたいという<u>熱意を持って笑顔で臨もう</u>。文法 的に間違うことを恐れてしゃべらないより、自分が伝えたいことを口に出すこと。できるだけ たくさんしゃべると相手が理解してくれる内容が増える。失敗を恐れずチャレンジ!